学校番号	３１５

令和２年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	日本文教出版　高校生の美術						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・美術の創作活動を通じて、感性を高めるとともに、さまざまな表現能力を伸ばし、美術を愛する気持ちを養うことをねらいとする。
・感じ取ったことから考える「絵画・彫刻」、目的や機能から考える「デザイン」、感じ取ったこと・目的や機能から考える「映像メディア表現」と「鑑賞」の分野について学習する。
・一人ひとり思いや観かた、感じ方が違うので、表現方法の特性や形態・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や表現を深める。また、違った見方を「鑑賞」で共有すると、さらに美術への興味関心が広がり、知識や能力も深まる。

２　学習の到達目標

生徒各人が個性を伸ばせるように、さまざまな表現方法に取り組む。
また、お互いの良いところを伸ばせるよう積極的に鑑賞しあうことを重視する。
美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力をのばし美術文化についての理解を深める。

３　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを味わう。多様な表現方法や、美術文化に関心を持つ。 主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組む	感性や想像力を働かせ、感じ取ったこと考えたこと、目的や機能、美しさなどから、主題を決めて、創造的な表現の構想を練る	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を工夫する。	美術作品などの表現の工夫や美術文化を理解する。 よさや、美しさを創造的に味わう。
評価方法	制作の様子 ワークシート 鑑賞活動やグループワークの様子	アイデアスケッチ ワークシート 製作途中の作品 作品	製作途中の作品 作品	ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	【オリエンテーション】【デザイン】【鑑賞】 「不思議な空間」(作図プリント)	・オリエンテーション ・教科書を鑑賞し多様な表現方法について学ぶ。 ・「不思議な空間」 　等角図法、キャビネット図法、透視図法について学ぶ。 ・「不思議な空間」 　正確な下書きを作図する。	○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	○ ○	a:美術の多様な表現に関心をもち、これからの学習に意欲を高めている。 b:美術作品などのよさや美しさを感じ取り美術の働きや文化についての理解を深める c:図法の目的を理解し立体感を表現する作図法を理解する。 d：教科書、プリントをしっかりと見「、立体感のある不思議な空間」作品を表現できているか。	学習活動の様子 製作途中の作品 制作の様子 作品 プリント グラフ用紙に下書きを制作する。
	【デザイン】【鑑賞】色彩構成・不思議な空間」 遠近法・透視図法	色彩の基礎(過去の生徒作品を鑑賞する。) 色彩構成(下書きをチャ乎ペーパーで複写する。) 画用紙にアクリル絵の具で着色。 アクリル絵の具の特性を知る。 幻想絵画の作家作品を鑑賞する。	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	a:形や色彩などの働きを考えながら構想を練る。(火この作品を参考にする。) b：明度・彩度・配色・構成などを工夫し表現する。 アクリル絵の具の特性をいかす。 c：条件や美しさなどから形や色彩などの働きを考えて表現の構想を練る d：M．Cエッシャー、ダリ、マグリットなどに作品鑑賞から、作品の内容を高める。	制作の様子 製作途中の作品
	【デザイン】【鑑賞】 色彩構成・不思議な空間」	・「色彩構成・不思議な空間」を通じて絵の描き方、発想を学ぶ。 ・着彩する。 さまざまな描画材料の使い方を学びグレードの高い作品に仕上げる技術を学ぶ。	○	○	○	○	a:色彩・配色の美しさや感情を理解し目的を考えながら着彩する。 ｂ:立体図形をさらに工夫をし幻想的な表現を追加していく。 ｃ:アクリル絵の具の特性を生かし表現方法を工夫する。その他の材料(マスキングテープ、溝引き、水性色鉛筆、水性カラーペン、クレパスなど)の使い方を学ぶ。 計画通りに物事を進める。 ｄ:友達の作品を互いに鑑賞しあう。	制作の様子 制作途中の作品 作品

2	【彫刻】【絵画】 擬人化された生き物「私は誰でしょう！」	・人物クロッキーと動物の描写の研究。(各 10 枚ずつ提出。動物は1種類でもよい。) ・資料として写真を集める。 ・作品鑑賞。 ・アイデアスケッチを描く。(5方向:上、前、後ろ、左、右を描く。 ・作品制作 ・展示をして鑑賞する。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a：人間と動物の骨格や筋肉を調べる。クロッキーや写真から調べる。 b：人形造形作家の作品を鑑賞する。 c：動物と人物を組み合わせてアイデアスケッチを制作する。(色鉛筆で着彩。違和感が出ないよう気をつける。) d: c:表現方法に誤りが無いか、理解しているか、作者の意図や表現の工夫、よさや美しさを感じ取る	・ワークシート 人物と動物の描き方の理解。資料集め。 ・アイデアスケッチ ・塗り方の工夫、製作途中の作品 ・作品鑑賞プリント
	【彫刻・デザイン】 木彫表札	立体的な彫刻を木彫によって行う。その際レタリングも学ぶ。丁寧に木彫をしてその後　表面の塗装も行う。つり金具をつけて展示し鑑賞する。	○	 ○	○ ○	 ○	a：レタリングを学び、実物大のアイデアスケッチを制作する。 b：作者の創意工夫が見られるか？ c:丁寧に色塗りをしているか？ d：自分の作品の評価と他者の作品の評価を肯定的に捕らえて鑑賞ワークシートを記入する。 ※時間があれば合評会をする。	・レタリングプリント ・アイデアスケッチ(色鉛筆で着彩する。) ・鑑賞ワークシート 制作の様子 製作途中の作品 作品

3	【絵画】アクリル絵の具とペインティングナイフを使い絵画制作をしよう！「自画像」	・「自分の顔」をテーマにケントボードに描く。 ・参考作品を鑑賞する。				○	a:作家の作品を鑑賞し、自画像により自己の内面を表現していることを理解する。※特にゴッホの作品、現代アートの作品も見る。	
		・自分の顔をデッサンする。	○	○	○		b: 鏡を使い微分の顔をデッサンし、背景を考えてアイデアスケッチを作る。	デッサンする態度、とアイデアスケッチ。（別のケント紙 B4） ・発想の豊かさ ・ 丁寧さ ・ 道具の正しい使用 ・製作途中の作品 ・作品 ・鑑賞ワークシート
		・アクリル絵の具主体にペインティングナイフを使い制作する。 ※ケントボードに下書きを描くとき、鉛筆は使わず、黄色で下書き、明暗の調子を青色で薄く点描で描いてから、本格的に着彩する。		○	○		c:テーマを理解し、表現形式の特性をいかして形態、構成などを工夫して創造的な表現の構想をねっている、道具をつかいこなせているか。（ペン、色鉛筆、クレパスも使ってよいが補助的に使う。）	
		・展示をして作品鑑賞する。	○			○	d:よさや美しさ、表現の工夫などを感じ取り作品について理解を深める	

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　　b:発想や構想の能力
c:創造的な技能　　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。